

# 友達と関わって遊ぶ中で、 自分の思いや考えを言葉で伝え合える幼児の育成 一心を動かすような体験を共有できる遊びを通して

特別研修員 幼児教育 我満直子(幼稚園教諭)



幼児の実態

- ・思い通りにいかないと黙って遊びを抜ける。
- ・言葉で伝えられなかったり、言葉が足りなくて伝わらなかったりする。



教師の願い

- ・自分の思いや考えを、自分なりの言葉で言えるようになってほしい。
- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わってほしい。

手立て

## 体験を共有し、友達との関わりを生み出す場の工夫

- ・心を動かすような体験
- ・友達の話を書く場面を設定
- ・友達と協力しないと扱えないような材料の提示
- ・繰り返し遊べるような場や時間

## 環境の構成

## 友達に言葉で伝えたいと思えるような教師の言葉掛け

援助

- ・自分の思いを出せるような言葉掛け
- ・伝えることを促す言葉掛け
- ・友達の思いに気付く言葉掛け

## ～心を動かすような体験が共有できる遊び～

実践例「大型段ボール箱で遊ぼう」 5歳児10月



わあ!

大きい  
段ボール箱だ!

心を動かす

運動会で使った  
ような大きな段  
ボール箱をみんな  
の見えるところ  
に出す

友達と関わりが  
生まれるように  
段ボール箱の数  
は少なめにする

遊びが広がるよう  
スペースを広く  
しておく



呼んで  
くるから  
待ってて

自分の思いを伝える

〇君はどう  
思っている  
のかな?

友達の話を  
聞く場面を  
意図的に  
作る



もも組さんが  
来てくれて、  
うれしかった

友達の話を聞く

誰か  
呼んできて!

今みたいに  
言ってみたら?

どんなことをして  
遊んだの?



びっくり箱に  
遊びに来て!

うん!  
いいよ

年中児を遊びに誘う

貼って  
みようよ  
ガムテープで



段ボールが立つように考えを出し合う



積み木で押さえて  
みよう!

いじく置くね

成果と課題

- 友達と協力しないと扱えないような材料を提示し、友達と一緒に繰り返し遊べる場や時間を保障したことで、いろいろな場面で言葉でのやり取りが増え、思いや考えを伝えることにつながった。
- 教師が先回りして教材を提供したり、必要以上に言葉を掛けたりすることで、思いや考えを伝え合う機会がなくなってしまうこともある。今後も、教材の提示の仕方や教師の関わり方を工夫していきたい。